

神奈川県派遣交換留学生 近況報告書（初回）

所属	外国語学部	国際文化交流学科	学科 専攻
派遣先大学 (国)	台湾国立大学 (台湾)		
所属プログラム・ 学部・研究科	中国文学科		
報告書提出日	2019年9月30日		
留学予定期間	2019年9月～2020年1月		

1. 渡航について

1.1. 出発前の準備

出願料・宿舍デポジット： 540 (USD) /合計
 航空券代： 69,320 (JPY) /合計
 ビザ申請関連費： 10,110 (JPY) /合計
 その他 ()： () /合計

ビザ取得の際に残高証明書は必要でしたか？ はい いいえ

6月の終わりに受け入れ許可証が届いた。

VISA申請に往復の航空券が必要だったので7月の半ばにHISで航空券を予約した。

航空券で帰国日が決まったのでその後保険の申請を行った。

必要な書類が分かりづらかったので台湾駐日文化経済代表処に電話をすると資料を送ってくれた。

8月の半ばにVISA申請と寮のお金を支払った。

1.2. 渡航について

行きは羽田空港から松山空港までむかった。

現地での出迎えはお願いしなかったのでなかった。

移動は電車でNT\$30だった。

\$100札しか使えないことや大荷物であることの為に空港から寮まで90分程かかった。

最寄り駅から寮までは10分もかからないくらいだった。

2. 到着後の手続きについて

2.1. 寮・ホームステイ等への入居手続き

・手続き方法

手続きに必要なものは台湾国立大学からの受け入れ許可証のコピー、パスポートのコピー、パスポートサイズの写真二枚、電気代NT\$600、二十歳未満は親の同意書の5つだった。

これらをカウンターで提出すると電気のカードと契約書などの必要書類が受け取れる。

記入し終わると部屋の鍵が渡されて、部屋の備品が揃っていることを確認すると手続きが終了した。

・気づき

手続きは混んでいてかなりの時間がかかった。受入日の前からでも連絡すれば入寮できるのでその方が、時間がかからずにすむと思った。私の場合は3時間ほどかかったがそのほとんどがカウンターに提出するための待ち時間であった。

部屋にはベッドはあるがマットレスなどは買わないといけなかった。A・B・Cと3つの寮があるA棟とB棟の間に安く日用品の揃えられる店があるのでそこでだいたいものは揃う。

引き出し、クローゼットにも鍵がかかるようになっていたので貴重品の管理はやりやすいように感じた。

2.2. 滞在許可・外国人登録の手続き

私が取得したビザは停留ビザではなく在留ビザなので現地に着いた後は90日以内に延長する以外することがない。

2.3. オリエンテーション・学生登録・プレイズメントテスト等の学内手続き

9/4 オリエンテーション：国際課の窓口の受付時間、レジストレーションについて必要書類や時間の確認、中国語の授業についてプレイズメントテストの日程や登録の仕方、学生生活等についての説明が英語で行われた。午後には中国語でのオリエンテーションも開催されていた。

9/5 レジストレーション：日本人が一番早くて9:00からの受付だったが少し早めに行っても人が並んでるだけで時間通りにしか始まらなかった。必要なのは保険証のコピー、健康診断書の原本、online registrationの時に提出したInternational Students Declaration Formの原本、入学許可証と現地のコンビニや郵便局でWi-Fi料金を支払ったことを証明するpayment sheet(オンラインでダウンロードしてコンビニ等でコピーする)だった。加えて、現地の携帯番号や住所等を登録するEmergency contactをオンラインで登録する必要があった。必要なものが揃っていれば10分もかからなかった。レジストレーションが終わると学生証を受け取ることができた。

9/8 プレイズメントテスト：時間は学籍番号ごとに決まっていたが、時間より早く着いても始めることができた。一人ずつ受験番号を確認して希望する授業の時間を選んだ後それぞれで筆記試験を受けて最後に口頭テストという順番だった。プレイズメントテストなのでそこまで厳しくなく、どれくらいの実力かを確認するだけという感じがあった。結果は丁度一週間後にオンラインで確認ができた。また、授業を受けてみて合わない場合は変更することもできた。

3. 目標について

3.1. 留学の目的、達成目標

HSKの5級とTOEIC650以上を目指して勉強している。

3.2. これまでの学習・研修目標および達成度について

中国語や英語を話すコミュニティを授業の外に作る事ができたのでこれからはそこに積極的に参加していきたい。また、中国語や英語をあまり読まなかったので授業の予習・復習を通してしっかり読みたい。

3.3. 今月の学習・研修目標

復習として、新しく買った中国語の教科書の授業で取り扱わない範囲の勉強を進めたい。言語交換を現地の学生と週に1回以上行ってリスニング力を向上させたい。英語はアメリカ詩の授業の予習をして英語を読む練習をしていきたい。更に、授業の外の英語を話すコミュニティに週二回以上参加したい。

4. 学修について

4.1. 授業時間割

現在の学期	前学期
月	General Chinese Language Course(8:10-10:00) Political Culture and Economic History in East Asia (13:20-15:10)
火	Chinese Enhancing Course (8:10-10:00)
水	General Chinese Language Course(8:10-10:00) An Introduction to American Poetry (13:20-16:20)
木	Chinese Enhancing Course (8:10-10:00)
金	General Chinese Language Course (8:10-10:00)
土	
日	

4.2. 授業について

(1 コマ/50 分)

①授業名：General Chinese Language Course(2 コマ/1 回)(3 回/週)

留学生のための中国語の授業。プレイスメントテストの結果によって振り分けられたクラスで授業を受ける。日本の英語の授業のような雰囲気、教科書が中心だがペアワークなどもある。私は Elementary II のクラスで授業は 8 割中国語で行われている。先生もゆっくり話して下さるので理解するのはそんなに難しくない。また、英語でも説明を加えて下さるのでわかりやすい。質問も英語で受け付けて下さる。必要な教科書はレベルによって変わるが、私のレベルは一冊目と二冊目の間のレベルの為二冊必要だった。

評価は毎回の授業にあるディクテーションと章末の小テスト、授業態度などで行われる。ディクテーションは教科書の単語が一覧になっている部分から出題される。小テストは教科書と共に購入したワークブックの内容に近いものを行う。リスニングや作文、間違い探し、並べ替え問題などがあった。

②授業名：Chinese Enhancing Course(2 コマ/1 回)(2 回/週)

留学生のための中国語の授業。①の追加としてとりたい人が選択でとれる授業。選択するのはプレイスメントテストの時だった。内容は①と同じく教科書を使いながらペアワークなども行う。クラスのレベルはほとんどが①と同じだが、自分で変えることもできる。こちらも 8 割中国語で行われて英語で補足が入る。こちらは教科書を自分で買わなくてもよく、教材のコピーが配られた。

評価方法も①と同じように小テストの積み重ねで評価されるが私はまだ受けていないので内容の詳細は不明。またこの授業は①を履修していないと受けることができない。

③授業名：Political Culture and Economic History in East Asia(2 コマ/1 回)(1 回/週)

主に沖縄を中心に東アジアの政治や経済を、歴史的背景を考えながら見ていく授業。プレゼンテーショ

ンやディスカッションがメインの授業。授業自体はすべて英語でプレゼンの参考資料も英語だが、先生が沖縄出身の方なので質問等は日本語でできる。また、授業の定員は少ないが希望者が全員とれるようにアレンジしてくださった。教科書などはない。欧米系の学生が多くいるのでプレゼンテーションの準備などでも交流できる機会が多くある。

評価は2回のプレゼンテーションとレポート提出、授業毎のコメントシートで行われる。

沖縄と日本、中国、アメリカ、台湾などの関係について少しでも知っている日本人として恥ずかしくないと思うが知らなくても大きく問題にはならない。

④授業名：An Introduction to American Poetry(3コマ/1回)(1回/週)

アメリカの詩を読んでみんなディスカッションする授業。すべて英語で行われて先生も英語しか話さない。内容は文学を楽しむという感じで、作者の背景などを学びながらどう感じたのかを話し合う。現地の学生と留学生が半分ずつの割合でいる。教科書は指定されたものが一冊ある。

評価方法は1回のプレゼンテーションと3回のレポートがあり、レポートは学生が書いた例が公開されている。プレゼンテーションはグループプレゼンテーションで4、5人のグループで行う。

4.3. 予習・復習・自習について

①は授業の内容は日本の学校で習った内容にかぶることもあるので日本から持ってきた教科書も活用しながら復習をしている。毎回ではないが課題も出るのでそれを教科書で確認しながら行っている。私はピンインや声調を覚えるのが得意ではないのでそこが苦労している。

②は①と大きくは違わないがこちらの方が、少し課題が多い。また、まだ習ってない範囲でも教科書の範囲に入っていればテストに出てくるので予習が必要。

③は神奈川大学で言う Dot-Campus のようなものが台湾大学にもあり、そこに上がっている英語の資料を読んでプレゼンをするのでその資料を読むことが予習になる。また、グループプレゼンテーションなのでそれについて準備することも必要だが、その他には特にすることはない。

④は授業内でディスカッションするために指示された分の詩を授業までに読んでおかななくてはならない。また、読むだけでなく理解して何かコメントをつけられるようにしておかないと授業において行かれてしまう。一度にかなりの量が出る上内容も古い英語が使われているので予習に一番時間がかかっている教科である。

5. 生活について

5.1. 衣食住について

住居	学内寮（その他： ）
----	------------

1階にセブンイレブンの自動販売機があったのでそこで買い物をしようとしたら電子マネーしか使えなくて買えなかった。→学生証が電子マネーとして使えるので学生証が手元に来たら自販機の利用を始めた。

携帯の契約は中国語がわからなかったのでバディについてきてもらったが正解だった。

部屋ではルームメイトの子といろいろ共有していて、Wi-Fiなども一緒に使っている。

5.2. 課外活動について

休日は日本と大きく変わらず、たまに出かけたり部屋にいたりする。また、授業が朝しかない日などは買い物や観光などに出かけることもよくあり、お昼を遠出することもある。そのときはMRTと言う日本の地下鉄のようなものが早くて安くて便利である。また、バスも多く通っているのでこちらも便利である。

サークル活動はまだ決めてはいないが、サークルの勧誘イベントでは200以上のサークルがあって面白そうなものもあったのでいくつか見てみるつもりでいる。

5.3. 現在までの感想

台湾は日本と似ているけど違う場所という感覚が強い。学生生活を送るのにとても過ごしやすい環境で、特に大学の周りは賑わっているので必要なものがすべて揃う。物価も安いので無駄遣いには気をつけたい。食事は作る場所がないのですべてか買って済ませているが、朝早くから夜遅くまでどこかしらのお店はやっているので問題はない。

最初のうちは知り合いもいなくて話す人もいなかったせいで不安な気持ちも大きかったがだんだんと知り合いも増えて相談しながら生活するうちに楽しい気持ちの方が大きくなった。今は日本人と関わりすぎているのではと言う不安もあるので、誰とどのようにつきあって行くのかを考えながら生活したいと考えている。

以上

神奈川県派遣交換留学生 近況報告書 (11月)

所属	外国語学部	国際文化交流	学科 専攻
派遣先大学 (国)	国立台湾大学 (台湾)		
所属プログラム・ 学部・研究科	中国文学科		
報告書提出日	2019年12月3日		

1. 目標について

1.1. 留学の目的、達成目標

HSKの5級とTOEIC650以上を目標に学習している。

1.2. 先月の学習・研修目標および達成度について

英語は伸ばしたいと思っているリーディングの練習をなかなかできていないので、英語を読むことをしたい。中国語は中間テストなどを通して今までに習ってきたものが身についているかどうか確認しながら学習を進めることができている。また授業中も以前より積極的に行うことができているように感じる。

1.3. 今月の学習・研修目標

英語に関しては、今月からまた一つレポートを書くので、前回よりも多くの文章を読んでまとめたいと思う。中国語は、言語交換の今月から機会が増えるので、授業内だけでなく教室の外でも積極的に使っていきたい。

2. 学修について

2.1. 授業時間割

現在の学期	前学期
月	General Chinese Language Course(8:10-10:00) Political Culture and Economic History in East Asia (13:20-15:10)
火	Chinese Enhancing Course (8:10-10:00)
水	General Chinese Language Course(8:10-10:00)
木	Chinese Enhancing Course (8:10-10:00)
金	General Chinese Language Course(8:10-10:00)
土	
日	

2.2. 授業について

①General Chinese Language Course

だいたい一週間から二週間をかけて一つの課が終わるくらいの進度で進められており、毎回の課の終わりに小テストがある。説明がわかりやすく、適度にペアワークがあるので理解しやすい。また、ほぼ毎回の授業にディクテーションでは、リスニングとライティングが上達するように感じる。宿題は小テストの前のワークブックの提出だけである。

中間と期末にあるテストでは小テストのようにリスニングとライティングだけでなくスピーキングのテストがある。また、12月からは自分の国以外の国や地域を紹介するプレゼンテーションもある。プレゼンテーションは一人五分程度で、内容はほとんど先生から指示が出ている。

②Chinese Enhancing Course

こちらは二週間から三週間で一つの課が終わるくらいの進度で進んでいる。はじめの課の後は小テストがあったが、それ以外の課は進度の関係で小テストはなく中間と期末のテストのみである。テストはリスニング、ライティングとスピーキングで行われる。また、課のはじめの方に単語のディクテーションが範囲を半分に分けて二回行われる。①の授業に比べて宿題が多いが、他のクラスの学生と比べると量も回数も少なく感じる。宿題になるのは授業でペアワークの時に使われたプリントがほとんどで、授業内で一度扱ったものを家でもう一度復習すると言う感覚に近い。このプリント以外にも、一つの課が終わるタイミングでワークブックのようなものを一度提出する。これにはリスニングのパートもついており、CEIBAと言う神奈川大学で言う Dot-Campus のようなものに音源が上がっているのので、それを使って行う。

③Political Culture and Economic History in East Asia

内容は前回書いたとおり学生によるプレゼンテーションが中心で、毎回一つから二つのプレゼンテーションがある。ネイティブスピーカーに近いスピードで行われるため、内容について行くのはかなり難しいが、自分の予備知識と CEIBA に上がっているスライドを見ながらなんとかついて行っている。レポートは一つ 1,000 字以上なので少し長めに感じた。日本人の学生もいるので困ったときは助け合える。授業は他の授業より三週間ほど早く終わる予定になっている。

2.3. 予習・復習・自習について

①②に関しては出された課題をやる、新しい単語のピンインの確認、言語交換の際に実際に使ってみるといようなことをしている

③はプレゼンテーションの準備か次回のグループのスライドの確認を行っている。

2.4. 語学力について

英語は今までよりもいろいろな人に話しかけようと思い、中国語のクラスのクラスメートとも英語を使って会話するようになった。しかし、英語を使って交流していたグループへの参加率が落ちてしまっているの、モチベーションを上げてもう一度積極的になりたい。中国語は逆にいろいろな人との交流の場が増えてきているので、このまま積極的に使っていきたい。また、以前よりお店などで中国語を使われても落ち着いて対応できたり、中国語を使って質問したりと躊躇せずいろいろなことができるようになってきたのでこれからも続けたい。

3. 生活について

3.1. 衣食住について

住居	学内寮（その他： ）
<p>トイレトペーパーをトイレに流せないせいで小バエが大量発生する事件が起きた。その後は小さめの袋を買ってこまめに捨てるようにした。</p> <p>11月の半ば頃から冬になってきたがそこまで寒くなく、むしろ晴れていると暑く感じるほどである。しかし、台湾の冬は霧雨が多く、霧雨が降ると肌寒く感じる。そのため、フードのついた多少雨や風に耐えられるような上着を用意したがなかなか便利に使っている。</p> <p>食べ物は台湾の料理だけでなく各国の料理が日本と同じように食べられる。特に、日本料理は多少日本と違うものの近いものが食べられる。お米も日本のお米に近いので食べやすく感じる。また、寮にはキッチンと呼べるようなものはついていないが、台湾では作るより買った方が安いので問題ない。電子レンジはついてるのでコンビニのお弁当などは調理できる。</p>	

3.2. 課外活動について

<p>新しく手話のサークルに参加することにした。サークルでは手話と中国語が主な言語になるが、日本の手話と台湾の手話は似ているので必死に追いつこうと頑張っている。内容は中国語の歌に合わせて手話をすると言うもので、歌の早さに手が追いつかないのが難しい。12月に期末発表会をサークル内で行うのでそれに向けて練習している。</p>

3.3. 現在までの感想

<p>特に悩みなどはないが、周りに日本人が多いため困ったときにどうしても頼りすぎてしまいがちに感じる。学習については、とっている授業が少ないので日本の大学に戻ったときのための学習を少しずつ進めている。</p>
--

以上

神奈川大学派遣交換留学修了報告書

所 属	外国語学部	学 科	国際文化交流学科	2 年次
派遣先大学 (国)	国立台湾大学 (台湾)			
所属プログラム・ 学部・研究科	中国文学科	履修言語	英語・中国語	
留学期間	2019 年 9 月～2020 年 1 月			
報告書提出日	2020 年 1 月			

1. 学修について

1.1. 学期区分

学期	授業期間	試験期間	履修登録するまでの過程
Fall Semester	9 月 9 日 ～1 月 10 日 (18 週)	月 日 ～ 月 日	<p>8 月に入ったところで台湾大学の方からメールでシラバスの確認や履修登録ができるホームページの URL が送られてきた。それを送られてきた手順に従って登録した。ほとんどすべての授業が抽選で三回程抽選の機会がある。また、抽選から漏れても第一回目の授業にて履修登録のための紙が配られる。しかし、その紙も教授によっては抽選になったり配られなかったりする。</p> <p>テスト期間は明確には設けられておらず、授業内テストやプレゼン、レポート提出が最後から 2, 3 週間の間に行われる。</p>

1.2. 履修科目・内容

学期	履修科目名	合計時間	履修内容・授業での取り組み
		(内訳)	
Fall Semester	General Chinese	89.64 時間	授業は月・水・金の朝 8 時 10 分から 50 分一コマの授業が二コマ続けて行われた。教科書を中心に授業は進められていた。毎課終わるごとに小テストが行われた。テストの内容はリスニングとライティングで宿題のワークブックなどを使って復習をした。中間試験と期末試験はいつもの小テストのような筆記試験と口頭テストが行われた。こちらもテスト範囲の教科書やワークブックを利用して勉強をした。また中間テスト後にプレゼンテーションも行った。内容は先生から出された「行ってみたい国」というお題に対して説明すべき項目を穴埋めする形で行われた。1 人 5 分程度と言われていたが時間は厳密ではなく、長い人も短い人もいたように感じる。
		0.83(時間/回) × 6 (回/週) × 18 (週)	
Fall Semester	Enhncing Chinese	59.76 時間	授業は火木の朝 8 時 10 分から授業は月・水・金の朝 8 時 10 分から 50 分一コマの授業が二コマ続けて行われた。教科書を中心に授業は進められていた。毎課終わるごとにディクテーションを自分たちで作ってクラスの前で発表した。テストは中間試験と期末試験のみで筆記テストと口頭テストが行われた。試験勉強としてはワークブックの他に授業内で配られたプリントなどを利用した。
		0.83 (時間/回) × 4 (回/週) × 18 (週)	
Fall Semester	Political Cultuer and Economical Development in East Asia	53.2 時間	授業は毎週月曜日に 50 分一コマの授業が二コマ続けて行われた。一番はじめのオリエンテーション以外は常に誰かが何かを発表して、それを周りが聞いたり評価シートを書いたりしていた。試験はなく、中間と期末にレポート提出があった。前半は先生が考えたテーマと提供された資料を用いてのプレゼンテーション、後半は自分たちが考えたテーマについてのプレゼンテーションを行った。それぞれいくつかのグループに分かれてのグループプレゼンテーションだった。レポートはそのプレゼンテーションの内容に関する内容を 1,000 語以上書くと言うものだった。
		0.83 (時間/回) × 4 (回/週) × 16 (週)	

1.3. 学修する上で心がけていたこと、予習復習の仕方について

語学が中心の勉強になったので、毎日行うこととできるだけ声に出して行うことを意識して学習した。また、予習自体は行うと逆にリスニングの練習にならないこともあったので、あまり多くの時間は割かなかった。反対に復習の機会は探せばいくらかもあったので、積極的に使って会話することで日本にいたときよりも多く行えていたと感じる。英語を使う授業では、日本語でない分、何事にも時間がかかったので早めの準備を心がけた。

1.4. 語学力について

中国語については現地ですでにできた友達と会話することが一番の練習になった。また、先生へ積極的に質問などをするために文法などについても理解を深めることができた。更に、知り合いだけでなく町に出たときに道を聞かれたり、お店でもものを買ったりする中でも授業で習ったことを生かしながら生活できたように思う。英語については、中国語ができない分の補いとして使わなくてはいけない場面や、留学生同士での会話で、多く実用的な英語を使うことができた。特に英語を使うコミュニティ内で使われるLINEなどの会話は、文字として形に残ったため見返したり、辞書で調べたりすることも容易だったためいい勉強になった。

2. 留学の成果を振り返って

2.1. 学修の成果

英語に関しては当初の予定よりも履修できた科目が大幅に少なかったために成果が上がっているの不安な部分が多い。しかし、中学生などの頃には感じなかった英語で話すことの恐怖をはじめ体験することができた。また、留学を通してその恐怖を克服することができたのでそれは一つの成果だと感じている。

中国語は上達できたのではないかと感じる。それははじめ英語でしか行えなかったルームメイトやバディとの会話が最後には100%ではないにしろ中国語でできたことが証明していると思う。

また、Political Culture and Economical Development in East Asia の授業を通して欧米や台湾、中国から見た第二次世界大戦以前の日本や今の日本、欧米から見た東アジアの姿を学ぶことができた。日本にただいだけでは分からない日本の姿をプレゼンテーションやディスカッション、参考資料から知ることができた。

2.2. 学修面での反省点ならびに留学志望者へ学修面のアドバイス

語学の面で言えることは、怖がらずにはじめから使っていたら良かったということだ。授業が少なかったと言うだけでなく、ネイティブスピーカーについて行けなかったらどうしようと言う気持ちで、英語を使う機会が格段に減っていたことに、後になって気がついた。英語はできなくても頑張って会話をしようとすることで英語を使い慣れていくことが分かった。また、多くの人は英語ができないことを攻めたり見下したりしないし、英語が上手いと思っていた人もあまり自分に自信がない人もいるということも知ることができた。だから、怖いと思ってもやってみる勇気が必要だと思う。

それ以外のところでは、自分を過信せずに余裕を持って準備をするべきということだ。わたしはいつも期限のギリギリになって終わらないことに焦りながらの行動が多くなってしまった。特にグループプレゼンテーションなどの時は周りに迷惑をかけてしまうこともあった。いつもより余裕があると思う以上に余裕を持って生活した方が、自分が困らないと思う。

2.3. 留学生活で得られたもの

留学生活では寮が二人部屋だった為、言語や文化の違う相手やコミュニケーションが上手くとれない相手との共同生活の仕方などを学んだ。自分で遠慮するだけでなくしたいことも伝えることでストレスなく生活することができた。また、上手くコミュニケーションがとれなくてもコミュニケーションをとる努力をし続ける大切さも学んだ。

2.4. 留学生活での反省点ならびに留学志望者へ生活面のアドバイス

人とのコミュニケーションは本当に大事だと感じた。留学するにあたって多少は英語に自信があって留学をしたり、その他の言語に自信があって留学したりするだろう。でも留学に行けばある程度できるは当たり前でむしろよくできる人が周りに多くいる。それに対して引け目を感じたり、怖じ気づいたりするのはもったいなかったと反省している。自分がよくできなくても、自信がなくてもとりあえずやってみると自信に繋がったり、新しい発見に繋がったりして留学に意味を見いだせると思う。

派遣交換留学中の生活等に関する調査

国際センター

記入年月日：2020年2月14日

所 属	外国語学部	国際文化交流学科	2 年次
派遣先大学	台湾大学		5 ヶ月間

I. 留学先での住居について

1	住居形態は 何でしたか？	<input checked="" type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ()
2	住居形態の詳細を教えてください。	台湾人との二人部屋、一部屋で仕切りなし、バスタイレ一緒のバスルームとウォークインクローゼット付、ベッドと机と本棚が備え付け
3	入居時手続き	日本でお金は送金する、寮に入る手続きとして契約書にサインしたり部屋の点検をすると鍵が貰える、光熱費カードを600円で買う
4	費用（月額）	() (食費 /月)
5	支払方法	郵便局で支払い（月ごと、セメスターごと、一括で選べた）
6	住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 洗面所 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(共同) <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(個別) <input checked="" type="checkbox"/> シャワー(共同) <input checked="" type="checkbox"/> シャワー(個別) <input type="checkbox"/> 浴槽 <input type="checkbox"/> 冷暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input checked="" type="checkbox"/> ジム <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯機 <input checked="" type="checkbox"/> 乾燥機 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (冷房)
7	住居選択方法	<input checked="" type="checkbox"/> 渡航前に申込 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者・新聞を通じて <input type="checkbox"/> その他 ()
8	周囲環境	大きいセブンを含め徒歩五分圏内にコンビニ多数、持ち帰り可能なご飯屋さん・日本のドラッグストアも徒歩圏内にあまた、徒歩10分で最寄りの駅やバス停・小さめのスーパー、15分歩けば大きくはないが夜市もある
9	アクセス	大学の正門までは徒歩10分程度
10	留学中の住居に関して アドバイス	寮はルームメイトだけでなく多くの人と知り合えるいい交流の場になっていた。ルームメイトのいない部屋でも交流は自分の努力次第なので自分の住みよさそうな環境を選ぶといいと思う。また、台湾大学は途中で部屋を交換することができるので、二人部屋に耐えられなくても問題ないかもしれない

II. 通信環境について

1	日本キャリアの携帯電話	持参しなかった
2	現地キャリアの携帯電話	現地でSIMカードを購入
3	現地携帯電話の取得手続きの方法	(バディに手伝ってもらって携帯会社で契約をした)
4	自宅のインターネット接続環境	無線（大学または寮へのLAN接続）
5	大学内インターネット接続環境	無線（大学または寮へのLAN接続）

III. 留学費用について

諸経費（1ヶ月の平均）		
1	宿舍費	4,000（元）/月
2	食費	8,000（元）/月
3	交通費	5,000（元）/月
4	通信費	700（元）/月
5	娯楽費	5,000（元）/月
6	図書費	0（元）/合計
7	学用品（教科書など）	15,000（元）/合計
8	被服費	10,000（元）/合計
9	医療費	0（元）/合計
10	雑費・その他	20,000（元）/合計
上記以外にかかった大きな金額の内訳（留学準備期間含む）		
11	出願料・宿舍デポジット	9,000（元）/合計
12	ビザ申請関連費	2,000（円）/合計
13	航空券代（休暇時旅行費用は除く）	80,000（円）/往復
14	その他	50,000（円）/合計
15	留学全日程に要した総額（概算）	44,000（円）/合計
お金の持って行き方		
16	<input checked="" type="checkbox"/> 現金（渡航時：二万円） <input checked="" type="checkbox"/> 国際キャッシュカード（銀行名：ゆうちょ銀行） <input type="checkbox"/> 海外送金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（クレジットカード）	
17	現地で銀行口座開設	してない
18	手続き方法・利点・欠点	ネット申込み、ATMならどこでも下ろせる。買い物でカードが使えないときがある。
19	お金に関するアドバイス	台湾は日本と同じくらい現金社会なので、現金が確実に下ろせる方法を一つでも持っておくべき

IV. 保険・医療について

1	海外旅行（留学）保険の種類	（　　）か月分で（　　）円
2	留学中に病気・けが等をし、通院・薬の処方を受けましたか？	いいえ
3	日本から持参した方が良かったなと思う薬などはありますか？理由はなんですか？	薬局で日本の薬も売ってるし、日本語表記もあったので市販の薬はいらなかったと思った

V. 持ち物について

1 日本から持っていったもの

パスポート、携帯電話、日本円と NTD(new taiwan dollar)、クレジットカード、デビットカード、数日間の着替え、パソコン、電子辞書、日本の中国語の教科書、筆記用具、はさみ、ホッチキス、ルーゼリーフ、クリアファイル、延長コード、ドライヤー、旅行用のアメニティ、コンタクト、タオル、虫除け、ムヒ、爪切り、洗濯ネット、日焼け止め、化粧品、消臭剤、折りたたみ傘など

2 現地で購入したもの

シャンプー、リンス、ボディソープ、洗顔、クレンジング、カミソリ、化粧水、洗濯洗剤、洗濯かご、ハンガー、洗濯ピンチ、枕、マットレス、布団カバー、掛け布団、コンタクト用品、ティッシュ、トイレットペーパー、生理用品、歯ブラシ、綿棒、ゴミ袋、ゴミ箱、水筒、スポンジ、電気スタンド、延長コード、SIM カード、傘、防寒着、化粧品、日焼け止め、教科書など

3 (自分は持っていかなかったが) 日本から持っていったら便利だと思ったもの

特にない。台湾は本当に日本製品が多いのでこだわりがなければ財布、携帯電話、パスポート、パソコン、数日間の着替えさえ持って行けば生活できると思った

VI. 留学先で困ったこと

大きな問題は起こらなかったが、分からないかったことや不安なことは、現地のできた友達やパディに相談することですぐに解決した